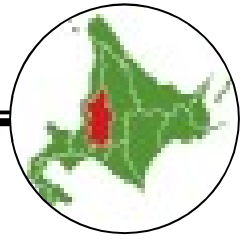


第6章 地域における主な環境保全の取組

＝【空 知】



1 「エコそらち」の構築に向けた環境配慮行動の普及啓発

空知総合振興局では、環境と調和した自然にやさしい「エコそらち」の構築を目指し、北海道らしい環境に配慮したライフスタイルの実践を図るため、「そらちエコラウンジ」事業を実施しています。

令和4年度（2022年度）は、環境月間（6月）に「であえーる岩見沢交流空間」で地球温暖化の現状やゼロカーボンアクションをテーマとしたパネル展を、3R推進月間（10月）には、岩見沢市役所で市と共催で環境保全パネル展を実施しました。

また今年度から、ゼロカーボン北海道の実現に向けて、ゼロカーボンシティ宣言をした自治体から「そらちゼロカーボンリレーパネル展」を開始しました。

そのほか、北海道森林・林業・環境機械展示実演会 in 芦別、深川市環境衛生協会の環境保全研修会（いずれも10月）、空知スマートアグリシンポジウム（12月）などでもゼロカーボン北海道について普及啓発を実施しました。

今後も同事業を通じて、空知管内がエコの輪でつながっていくような効果的な取組を進めます。

■環境月間パネル展（6月）



■3R推進月間パネル展（10月）



■環境保全研修会（10月）



2 空知地域におけるエゾシカの有効活用の推進

(1) エゾシカ肉の無料試食（食べてみて！絶品！エゾシカサイコロステーキ）

多くの方々にエゾシカ肉の美味しさを知ってもらうため、浦臼町の協力を得て令和4年（2022年）9月23日・24日及び10月8日に赤平市エルム高原リゾート及び秀岳荘白石店にて、エゾシカローズサイコロステーキ（栗山町産タマネギ付）の無料試食会を開催し、たくさんの参加者に試食いただき、好評を得ました。

■試食会の様子



■提供品目：サイコロステーキ



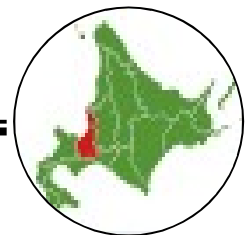
(2)「南そらちエゾシカウィーク-秋のおいシカ!巡り-」の開催

管内の飲食店でのエゾシカ肉利用の促進や、空知のエゾシカ肉の魅力を発信するため、南空知管内のカフェやレストラン9店舗の協力を得て、令和4年10月8日(土)～16日(日)の期間「南そらちエゾシカウィーク-秋のおいシカ!巡り-」を開催しました。各店舗では、この期間のために開発した美味しいエゾシカ肉料理を提供し、料理を食べた方へのアンケートでは、「柔らかく美味しかった」「思ったよりクセがなく食べやすかった」との声が寄せられ、一部の店舗ではレギュラーメニュー化するなど空知のエゾシカ肉の普及に寄与しました。

■イベントチラシ



＝【石 狩】＝



1 いしかり環境ミライ展2022

石狩振興局では、ゼロカーボン北海道の実現に向けて、管内全市町村のイベント等において「いしかり環境ミライ展」を実施しました。(令和4年度(2022年度) 計15回実施。)

ゼロカーボン北海道の認知度向上や、脱炭素型ライフスタイル・ビジネススタイルの意識醸成・行動変容を促すため、来場者の方に「ゼロカーボン北海道チャレンジプロジェクト」の取組を呼びかけるとともに、これから実践していくゼロカーボンアクションを宣言していただきました。

■いしかり環境ミライ展 2022 各会場での宣言の様子
(約 1,300 名の方から宣言していただきました。)



2 ヒグマによる人身被害等の防止に向けた取組

石狩管内では、市街地やその近郊でヒグマの出没が相次ぎ、人身被害が発生するなど、人とヒグマのあつれきが深刻化しています。

ヒグマによる人身被害等の防止のためには、ヒグマに対する正しい知識の浸透が重要であることから、普及啓発を図ることを目的として、令和4年(2022年)6月に支笏洞爺国立公園支笏湖ビジターセンターでヒグマパネル展を開催しました。

また、ヒグマ出没時の市町村の負担軽減に向け、通信機能付き自動撮影カメラによる出没監視について技術的支援を行い、普及を図っています。

■ヒグマパネル展の様子



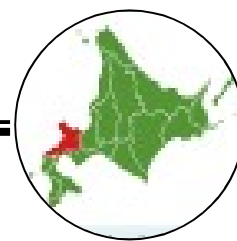
3 動物愛護フェスティバル in えべつ

江別市小動物開業獣医師会及び酪農学園大学の主催により平成21年(2009年)から実施されてきた「2022年動物愛護フェスティバル in えべつ」(江別市及び石狩振興局共催)を令和4年(2022年)9月18日(日)に3年ぶりに開催しました。動物愛護の普及啓発のため、各参加団体がしつけ訓練やマッサージなどの実演、ペット用品の販売などを行う中、石狩振興局のブースでは、動物の適正飼養やマイクロチップ挿入の推進などのパネル展示を行いました。あいにくの雨でしたが、およそ1,800人の来場があり、盛会となりました。

■2022年動物愛護フェスティバル in えべつ



＝【後 志】＝



1 ゼロカーボン北海道に係る取組

(1) 北海道クールアース・デイ

後志総合振興局では、「北海道クールアース・デイ」を契機とし、令和4年（2022年）7月7日に「ラッキー倶知安店」において、ゼロカーボンに係るパネル展示やエコキャンドル及びリーフレットを配布しました。

また、後志総合振興局独自の取組として、「ノー残業デーの設定」、「マイボトルを持ち歩き」、「ノーマイカー通勤、在宅勤務の推進」を実施し、490kg- CO₂の削減に取り組みました。

(2) 環境月間の普及啓発

環境月間の普及啓発活動として、令和4年（2022年）6月20日から24日まで、庁舎1階エントランスホールにおいて、のぼり及びポスターの掲示のほか、普及啓発資材の配布等を行いました。

■クールアース・デイの様子



■環境月間の普及啓発の様子



2 「ロングトレイル」を活用した環境保全と利用促進の取組

後志の中央部を東西に横断するニセコ山系は、多くの人々が利用しやすい標高 1,000m級の山々をつなぐように登山道が設置されており、雷電海岸の岩礁地形・神仙沼などの高地湿地帯・イワオヌブリの火山性地形など多様な自然環境を楽しむことができます。

これらの自然環境を保全するとともに、安全に気持ちよく登山道を利用してもらうため、後志総合振興局では関係町村・団体と協働で登山口や周辺道路の清掃や、道迷い防止のための看板設置等の維持管理を実施しています。

こうした取組を行政界にとらわれず発展させ、1本の道を歩くことでニセコ山系の魅力を体感していただけるよう、この登山道を「ロングトレイル」として位置づけ、関係町村と一体となって連携しながらアドベンチャーツーリズムのひとつとして広く国内外へ発信し、地域観光の向上を図るとともに国定公園の利用者増加や適切な維持管理が促進されることを目指しています。

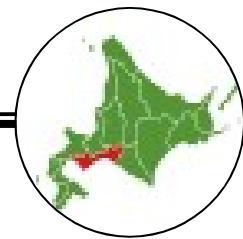
■ニセコ山系クリーン作戦の様子



■湖沼探勝コース整備・調査の様子



＝【胆 振】



1 地球温暖化防止に向けた取組

胆振総合振興局では、平成20年（2008年）7月に開催された「北海道洞爺湖サミット」を契機とした地球温暖化防止に向けた気運の高まりを継続する取組のほか、ゼロカーボン北海道の実現に向けた様々な取組を行っています。

（1）ゼロカーボンいぶりについて

ゼロカーボン北海道の実現に向け、令和4年（2022年）2月28日にTEAM「ゼロカーボンいぶり」を発足しました。TEAM「ゼロカーボンいぶり」は、胆振管内で脱炭素化の取組を実施している団体等のプラットフォームであり、令和4年度（2022年度）末時点で、産・官・学の114団体が参加しています。

令和4年度（2022年度）は取組の一環としてチームメンバーの交流を目的とした「いぶりカフェ」の開催やカーボンニュートラル工場の見学、地域コミュニティFMでの情報発信等を行いました。

■TEAM「ゼロカーボンいぶり」のロゴマーク



■メンバー拡大中！



■FM ラジオ番組出演（月1放送+YouTube）



■施設見学など（いぶり水素倶楽部）



■チームメンバー交流会



（2）いぶり環境サポーターズネットワーク事業

胆振管内では、身近な自然の復元を目的にビオトープ（生物群の生息場所）づくりを進めている「NPO 法人ビオトープ・イタンキ in 室蘭」や、室蘭イタンキ浜の鳴り砂を後世に残すために清掃活動や子ども達に鳴り砂の大切さを教える活動を行っている「室蘭イタンキ浜鳴り砂を守る会」など、各種団体等による様々な環境保全活動が行われており、胆振総合振興局では、これらの団体等が実施する取組へ積極的に参加しています。

2 動物愛護パネル展の開催

胆振総合振興局では、毎年9月の動物愛護週間にあわせて、動物愛護の普及啓発を目的としたパネル展を実施しています。

令和4年度（2022年度）は9月と10月に「子どもも大人も一緒に考えよう、私たちと動物」のテーマで開催し、販売される犬及び猫へのマイクロチップの装着・登録が義務化されたこともあり、マイクロチップとは何か、どのように役に立つのか等の解説に重点を置いた展示としました。

9月4日には、苫小牧市内で動物愛護団体が主催したイベントへ出展し、ペット同伴の方や家族連れなど多くの方に展示をご覧いただきました。また、10月末には胆振総合振興局庁舎内で5日間展示を実施し、マイクロチップに関するパネルに加えて、ペットの飼い方のマナー、動物愛護推進員の活動紹介などについて展示しました。

どちらもたくさんの方にご来場いただき、動物愛護への関心の高さがうかがえました。

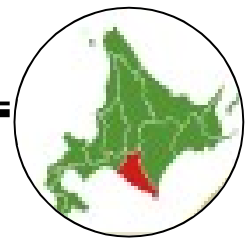
■パネル展の様子



■苫小牧市内でのイベント



＝ 【日 高】



1 地球温暖化防止・3Rに関する取組

令和4年度（2022年度）、日高振興局では、「北海道クールアース・デイ」に合わせた7月6日～10日の期間に、庁舎エントランスホールにて「地球温暖化・3R 啓発パネル展」を実施しました。ゼロカーボン北海道チャレンジプロジェクト等の紹介のほか、植物性のキャンドルを配布し、地球温暖化について考え、対策を実践することを呼びかけました。

また、3R 推進月間である10月の取組として、10月21日、浦河町総合文化会館において浦河消費者協会が開催した「うらかわ消費生活展」に参画し、パネル展示のほか、リーフレット・リサイクル製品を配布するなどして地球温暖化防止・3R 推進に関する普及啓発を行いました。

■地球温暖化・3R 啓発パネル展



■うらかわ消費生活展



2 日高山脈襟裳国定公園の魅力発信の取組

日高山脈襟裳国定公園は、総面積 103,447ha の我が国最大の国定公園であり、北海道の背骨といわれる雄大な日高山脈の山並み、広尾町から襟裳岬にかけての海岸線、花の名山として知られるアポイ岳の3つの地区で構成されています。

国立公園化の手続きが進む中、令和4年（2022年）11月27日、浦河町総合文化会館にお

いて、総勢 147 名を集め、「日高山脈襟裳国定公園魅力発信フォーラム」を開催しました。このフォーラムでは、日高の自然の価値を改めて見つめなおし、保護・利用のあり方を考えるため、酒場詩人の吉田類さんによる基調講演をはじめ、有識者等によるパネルディスカッションを行い、国立公園化に向けて機運を高めました。

また、太平洋側からのダイナミックな鳥瞰図とともに、日高管内の眺望スポットを紹介する「日高山脈マップ」を令和5年（2023年）3月から日高振興局 HP 等で公開・配布し、魅力発信に取り組んでいます。

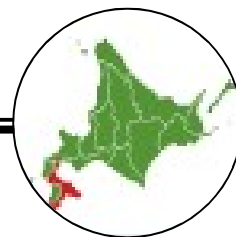
■魅力発信フォーラム



■日高山脈マップ



＝【渡 島】



1 大沼の水質改善に向けた取り組み

渡島管内の観光名所の一つである大沼は、昭和 55 年（1980 年）以降水質環境基準を超過しており、平成 7 年度（1995 年度）に「北海道湖沼環境基本方針」に基づく重点湖沼に指定されましたが、一方で、良好な自然が保全され、渡り鳥の中継地にもなっていることなどから、平成 24 年（2012 年）にラムサール条約湿地に登録されました。

渡島総合振興局では、毎年、大沼の水質改善に向けた取組を実施していますが、令和 4 年度（2022 年度）は、条約湿地に登録されてから 10 周年を迎えたことから、記念行事として、七飯町の小中学生を対象に、大沼ラムサール協議会や七飯町など関係機関と連携して「みらい×わたし×まち 大沼ワークショップ」を 7 月 30 日から 31 日まで、大沼婦人会館で実施しました。

東京大学・大阪大学の先生や学生の進行のもと、1 日目は大沼の地域観察と大沼の魅力・課題等について地元の方にインタビューし、地域の現在及び未来における課題について考えました。

2 日目は、1 日目の考察をもとに、理想の未来像を作画し、それを基にコミュニウム¹を製作しました。

¹ コミュナリウムとは

コミュニオン（commune：共通の価値、共通の賦課、相互の贈物）＋アリウム（arium：場所）の造語で、「価値を共有する場所」という意味を持たせている。地域の未来の景観模型（コミュニウム）を作成することで、それぞれ自身の頭の中にあるまちの将来像を他人に認識可能な形にする手法。

子供達が描く大沼の理想の未来像が良く表現され、大人では思いつかないようなアイデアが盛り込まれたとても魅力的な作品が完成し、作る側だけでなく、見る側にも地域の価値に改めて気付いたり、理想の大沼を目指すための行動につながる動機付けとなりました。

■地元の方にインタビュー



■完成した作品



2 灯りを消して七夕を

道では、北海道地球温暖化防止条例で7月7日を「北海道クールアース・デー」と定め、地球温暖化防止に向けた理解と意識を深めるための取組を集中的に行う日としています。

また、7月7日は函館の七夕であり、子供達が近隣住宅・店舗等を回ってお菓子をもらう風習があることから、渡島総合振興局では庁舎前でお菓子と一緒に、ゼロカーボンの啓発資材（ろうそく・チラシ）を配布し、七夕を楽しみながら、環境についての理解・興味を促す機会としました。このイベントは、3年ぶりの開催となり、約300人の子供達に参加いただき大盛況となりました。

■もったいないペヤーンも参加



■短冊に願い事を書く子供達



3 はこだてエコライフ展2022

一人ひとりがライフスタイルや事業活動をより環境に配慮したものへと転換していくことの大切さを知っていただくため、令和4年(2022年)11月19日(土)から27日(日)まで、函館市等関係機関との共催によりシエスタハコダテ4階Gスクエアにおいて、「はこだてエコライフ展2022」を開催しました。

11月19日(土)はキックオフイベントとして、地域コミュニティFM放送である「FMいるか」の番組内で、「ゼロカーボンシティの実現に向けて」と題し、脱炭素型のライフスタイル

への変革が進んだ 2050 年（およそ 30 年後）の函館を想像し、まちの姿や社会、生活環境について3名のゲストと北海道地球温暖化防止活動推進員との対談を行いました。

また、11月20日（日）は、はこだて「エコライフクイズ」と「エコドライブシュミレーター体験」を開催し、参加者には記念品を贈呈しました。

その他、期間中は、ゼロカーボン、エコライフや COOL CHOICE に関するパネルや環境学習ツールなどの展示を行い、クイズラリーでは、館内各所に設置されたエコライフに関するクイズに答えた方に、マイボトルなどの啓発グッズをプレゼントしました。

チラシやポスター、渡島総合振興局のインスタグラムなどを活用して事前に開催周知を行い、約 3,800 人の方にご参加いただきました。

■キックオフイベント ラジオ生配信



■環境学習ツール



4 管内学校における環境学習の実施

渡島総合振興局では、管内の学校を対象に、自然環境や野生動物についての理解を深めてもらうために、出前講座を実施しています。

令和4年度（2022年度）は、七飯養護学校、七飯養護学校おしま学園分校、函館市千代田小学校など複数の学校で、野鳥との接し方やエゾシカの生態等についての授業や、自然観察会を行いました。参加した生徒たちは、実際にシカの角や毛皮に触れ、その大きさに驚いていました。また、座学の後にはテーマに沿った、バードカービングなどの工作活動なども行いました。

■環境学習の様子



■バードカービング



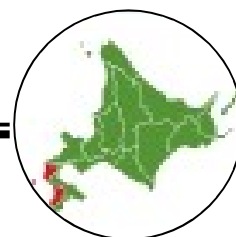
5 振興局主催の自然観察会等の開催

令和4年度（2022年度）は小学生とその保護者を対象とした2つの環境学習イベントを実施しました。まず1つめは大沼国定公園内を自然保護監視員の金澤晋一氏のガイドを聞きながら散策する「親子自然観察会 in 大沼」です。7月と2月に開催し、小沼や大沼森林公園内のコースを散策し、生態系の仕組みや生き物の生存戦略などについて学びました。2つめは自然について学びながら木を使った工作を行う「おしま自然教室」です。8月と3月に開催し、バードカービング色つけ体験と、エゾシカの角を活用した筆箱作りを行いました。工作を通して、野鳥やエゾシカについての知識を深めました。

■親子自然観察会の様子



= 【檜 山】



1 ひやまの環境教育

(1) ひやまりサイクル工作コンクール

檜山振興局では、平成10年度から管内の小学生を対象に「ひやまりサイクル工作コンクール」を開催し、身の回りの不要品を再利用した工作を通して「物をできるだけ長く大切に使う」、「使わなくなった物は資源に回す」等の3Rに向けた意識を育てています。

令和4年度（2022年度）で25回目を迎えた同コンクールは、環境教育イベントとして定着しており管内の17の小学校から、218作品の応募がありました。作品は檜山振興局内で土日も含め展示、公開し、子どもから大人まで多くの地域住民の方々にご覧いただきました。

■低学年の部 金賞受賞作品



■高学年の部 金賞受賞作品



（2）ボードゲーム「ゼロボン」のイベント出展

「ゼロカーボン北海道」の実現に向けた2050年現役世代への理解促進ツールとして、当局的若手職員が有志で結成した政策実践チームが開発・作成したボードゲーム、「ゼロボン」を管内外のイベントに出展し、学びの機会の提供を行いました。

体験者の半数近くが小学生以下である中、アンケート結果ではゼロカーボンの理解促進や取組意思の変化の項目について高い数値を示しており、楽しみながらゼロカーボンを学ぶことができた様子でした。

■ボードゲーム「ゼロボン」



■イベント出展の様子



2 ひやまの環境保全活動 ～海岸や街並の環境美化～

檜山管内は海や森林に囲まれた景観が美しい地域であり、管内の各町においては海岸や街並の環境保全に向けて、町内会等の住民団体、地元企業・NPO法人、行政機関等との連携による環境美化活動（清掃活動）が毎年実施されています。

令和4年度（2022年度）の管内における環境美化活動には、延べ約4,107名（檜山振興局調べ）の参加がありました。

こうした多くの参加者の協力により地域の環境保全が支えられています。

■江差町の清掃活動の様子

